

# 九州病害虫研究会

## 第 88 回研究発表会

### プログラム

共催 日本植物病理学会九州部会  
日本応用動物昆虫学会九州支部

2014 年 11 月 12 日 (水)

会場 ジェイドガーデンパレス

〒890-0055 鹿児島市上荒田町 19 番 1 号

TEL: 099-257-1211

#### 発表会場および進行予定

虫害 講演 12 分 (1 鈴 10 分、2 鈴 12 分) 質疑 3 分 (終鈴 15 分)

病害 講演 10 分 (1 鈴 8 分、2 鈴 10 分) 質疑 2 分 (終鈴 12 分)

	虫害会場 (飛天)		病害会場 (飛翔)
9:00-11:00	No. 1 ~8	9:00-12:00	No. 1~10 特別講演 1
日本応用動物昆虫学九州支部総会 13:00~13:30 (飛天)			
13:30-17:00	特別講演 No. 9~18	13:20-17:00	ビデオワークショップ 特別講演 2 No. 11~20

## 九州病害虫研究会

(The Association for Plant Protection of Kyushu)

<http://9byochu.ac.affrc.go.jp/main.html>

## 【講演にあたっての注意事項・その他】

- ・講演は Windows Microsoft PowerPoint 2000 以上で作成したスライドを液晶プロジェクターで投影しながら行って頂きます。(パソコンは、予め会場に設置したものを用います。ご自身のパソコンは接続できませんのでご注意ください。)
- ・講演ファイルは必ず CD-ROM に書き込んでお持ち下さい。本大会より USB メモリは使用できませんのでご注意ください。
- ・ファイルの入った CD-ROM は、午前・午後の開始前までに会場係に直接届け、作動の可否をご確認下さい。発表用パソコンへのインストールは、病害・虫害各会場係が行います。
- ・ファイル名は、講演番号(半角 2 ケタ)+発表者氏名(例「03 九州太郎」)としてください。
- ・虫害部会は、発表終了者に次の発表の座長を担当していただきます。ただし、午前、午後の最初の発表については事務局で対応します。
- ・虫害部会の講演要旨は、本会ホームページ内に掲載しております。印刷してご持参下さい。
- ・病害部会は病理学会九州部会が作成した講演要旨集をご利用下さい。

---

## 【九州病害虫研究会第 89 回春季研究発表会の開催お知らせ】

第 89 回春季研究発表会を下記のとおり開催します。

記

1. 日時 2015 年 2 月 5 日(木) 9:00~17:00 (終了予定時間)
2. 会場 KKR ホテル熊本  
〒860-0001 熊本市千葉城町 3-31  
(TEL) 096-355-0121  
会場ホームページ (<http://www.kkr-hotel-kumamoto.com/>)

詳細については後日、当会ホームページにて掲載いたします。

# 病害の部

会場：4F 飛翔

講演 10 分（1 鈴 8 分、2 鈴 10 分） 質疑 2 分（終鈴 12 分）

- 1 9:00 サツマイモ立枯病菌 *Streptomyces ipomoeae* のための分離培地  
○香川有貴・吉田政博・岡田吉弘<sup>1)</sup>（東海大農・<sup>1)</sup> 九沖農研）
  - 2 9:12 *Pseudomonas syringae* によるオクラ葉枯細菌病（病原追加）  
○ 富瀨 毅・瀧川雄一<sup>1)</sup>（鹿児島農総セ・<sup>1)</sup> 静岡大創造科学）
  - 3 9:24 サンセベリア炭疽病菌由来  $\beta$ -1,4 グルカナーゼ遺伝子のクローニングと発現解析  
○有村聖矢・小野山佳佑<sup>1)</sup>・中村正幸・岩井 久（鹿児島大農・<sup>1)</sup> 鹿児島大院連農）
  - 4 9:36 アシベンゾラル S メチル（ASM）処理による宿主抵抗性関連遺伝子の転写物レベルの推移  
○兵頭紋佳・竹下 稔・古屋成人・土屋健一（九大院農）
  - 5 9:48 トマト黄化葉巻病 (*tomato yellow leaf curl virus*) の自然感染宿主となりうるムラサキカタバミ  
○大城 篤・貴島圭介・村山裕子・喜久村（我那覇）智子（沖縄農研セ）
  - 6 10:00 イチジクモザイクウイルス（FMV）の伝搬と樹の生育  
○草野成夫・村本晃司・巢山拓郎・松本和紀（福岡農林試苗木・花き部）
  - 7 10:12 スマトラ島におけるバナナバンチートップウイルスの遺伝構造と多様性  
○千秋祐也・Nasir Nasril<sup>1)</sup>・Henny Herwina<sup>1)</sup>・福元智博<sup>2)</sup>・中村正幸<sup>3)</sup>・岩井 久<sup>3)</sup>（鹿児島大院連農・<sup>1)</sup> Andalas Univ.・<sup>2)</sup>鹿児島農総セ果樹・<sup>3)</sup>鹿児島大農）
  - 8 10:24 日本における *Pepper veinal mottle virus* の初発生  
○松本康佑・八坂亮祐・瀬戸山 保<sup>1)</sup>・河野伸二<sup>2)</sup>・大島一里（佐賀大農・<sup>1)</sup> ヤクルト本社・<sup>2)</sup>八重山農改）
  - 9 10:36 日本産スイセン黄色条斑ウイルスの全塩基配列  
○三苦真一郎・本田裕貴・大島一里（佐賀大農）
  - 10 10:48 Comparative analyses on virus accumulation and activity of RNA silencing suppressor of CMV-m1 in *Nicotiana benthamiana*  
○Maneechoat, P., Takeshita, M., Furuya, N. and Tsuchiya, K. (Grad. School Agri. Kyushu Univ.)
- 特別講演-1 講演 45 分、討論 15 分
- 11:00 迷信に支配されてきた殺虫剤抵抗性対策からの脱却  
○鈴木芳人氏・高橋 智氏<sup>1)</sup>（元中央農業総合研究セ・<sup>1)</sup> 奈良女子大理）

<休憩> 12:00~13:20

ビデオワークショップ

講演 35 分, 討論 10 分

13:20 植物病原菌の単孢子分離法・接種法  
松崎正文氏 (日本農薬福岡支店)

特別講演-2

講演 35 分, 討論 10 分

14:05 展着剤をもっと上手に活用するために何が必要か?  
川島和夫氏 (技術士)

<休憩> 14:50~15:00

- 11 15:00 鹿児島県におけるアブラナ科野菜根こぶ病の発生状況  
○尾松直志・樋口康一・蛭原直人<sup>1)</sup> (鹿児島農総セ・<sup>1)</sup>南薩地域振興局指宿駐在)
- 12 15:12 鹿児島県に発生したアブラナ科野菜根こぶ病菌株の病原性  
○樋口康一・松元 哲<sup>1)</sup>・尾松直志 (鹿児島農総セ・<sup>1)</sup>野茶研)
- 13 15:24 越年罹病株および二次伝染発病株の連続的発生によるタマネギベと病の多発生  
○稲田 稔 (佐賀農業セ)
- 14 15:36 連作障害を回避するための低リスク後作リストの科学的選択手順  
○浦野 知・皆川 望<sup>1)</sup>・本江孝一<sup>2)</sup> (ペコ IPM パイロット・<sup>1)</sup>元生研セ・<sup>2)</sup>富山県教委)
- 15 15:48 マンゴー果実病害に対する薬剤体系散布の防除効果  
○澤岨哲也・新崎千江美・大城 篤 (沖縄農研セ)
- 16 16:00 宮崎県におけるキュウリつる枯病菌の数種薬剤に対する感受性  
○楢間義幸・寺本 敏 (宮崎総農試)
- 17 16:12 営農指導機関で実施可能な QoI 剤耐性イネいもち病菌の培地検定法  
○平八重一之・笹谷孝英・井上博喜・川上 顕・宮坂 篤 (九沖農研)
- 18 16:24 ダイズ祖先種ツルマメの病変部から検出・分離された菌類 (予報)  
○佐藤豊三・大貫正俊<sup>1)</sup>・酒井淳一<sup>1)</sup>・加賀秋人・奥寺 繁<sup>2)</sup>・榊原充隆<sup>2)</sup>・菊地淳志<sup>3)</sup> (生物研・<sup>1)</sup>九沖農研・<sup>2)</sup>東北農研・<sup>3)</sup>近中四農研)
- 19 16:36 アカザカズラに発生した *Aspergillus niger* van Tieghem による黒点病 (新称)  
○正司和之・黒瀬大介<sup>1),2)</sup>・吉田重信<sup>1)</sup>・對馬誠也<sup>1)</sup>・田代暢哉 (佐賀上場営農セ・<sup>1)</sup>農環研・<sup>2)</sup>現 CABI Europe-UK)
- 20 16:48 日本産 *Stemphylium* 属菌の分子系統解析とシュコンアスター斑点病, ニラ褐色葉枯病およびアスパラガス斑点病の病原再同定  
○黒瀬大介<sup>1),2)</sup>・鈴木孝仁<sup>3)</sup>・市川和規<sup>4)</sup>・三澤知央<sup>5)</sup>・生咲 巖<sup>6)</sup>・Hoang H. Long<sup>7)</sup>・古屋成人<sup>8)</sup>・土屋健一<sup>8)</sup>・對馬誠也<sup>1)</sup>・佐藤豊三<sup>9)</sup> (<sup>1)</sup>農環研・<sup>2)</sup>現 CABI Europe-UK・<sup>3)</sup>元生物研・<sup>4)</sup>山梨総農技セ・<sup>5)</sup>道総研道南農試・<sup>6)</sup>香川農試・<sup>7)</sup>Agricultural Genetics Institute, Vietnam・<sup>8)</sup>九大院農・<sup>9)</sup>生物研)

# 虫害の部

会場：4F 飛天

講演 12 分（1 鈴 10 分、2 鈴 12 分） 質疑 3 分（終鈴 15 分）

- 1 9:00 ミカンコミバエ飛来解析システム  
○大塚彰（九州沖縄農研）
- 2 9:15 Foraging behavior of the hoverfly *Episyrphus balteatus* (Degeer) in lacy phacelia field  
○Chandrima Emtia・大野和朗（宮崎大農）
- 3 9:30 マンゴーにおけるマンゴーツメハダニとシュレイツメハダニの生活史特性と硫黄剤による防除効果  
○清水優子・伊地良太郎<sup>1)</sup>（沖縄防除セ・<sup>1)</sup>沖縄農研セ宮古支）
- 4 9:45 ワタアブラムシの薬剤感受性検定時の検定手法と虫体サイズの違いが感受性データに及ぼす影響  
○松浦明・日高春美（宮崎総農試）
- 5 10:00 2014 年に宮崎県で初確認されたモトジロアザミウマの各種薬剤に対する感受性  
○日高春美・松浦明・森下勝（宮崎総農試）
- 6 10:15 *Tomato yellow leaf curl virus* (TYLCV)を保毒したタバココナジラミに対する 2 種薬剤の感染抑制効果  
○樋口聡志・古家 忠・後藤千枝<sup>1)</sup>（熊本農研セ・<sup>1)</sup>中央農研）
- 7 10:30 ミトコンドリア DNA 種内変異に基づいた本邦産ミカンキジラミ地域個体群構造の解析  
○富村健太・西岡一也<sup>1)</sup>・嶽崎研<sup>2)</sup>・岩波徹（果樹研・<sup>1)</sup>鹿児島熊毛支・<sup>2)</sup>鹿児島農総セ）
- 8 10:45 プルート MC（ピリプロキシフェン）連用茶園内でのクワシロカイガラムシの発生推移  
富濱 毅・○鎌田 茂<sup>1)</sup>・泊 賢吾<sup>1)</sup>・重 光雄<sup>1)</sup>（鹿児島農総セ・<sup>1)</sup>鹿児島大隅振興局）

<休憩> 11:00~13:00

13:00 日本応用動物昆虫学九州支部総会

特別講演

- 13:30 トマト黄化えそウイルス (TSWV) と媒介種であるミカンキイロアザミウマの総合防除に関する研究  
○岡崎真一郎（大分農林水研農業）
- 9 14:30 水田におけるクモ類の個体数に及ぼす農法および景観の影響  
○田中幸一・馬場友希（農環研）

- 10 14:45 土着天敵の保護利用を核とした露地栽培オクラの IPM  
○柿元一樹・井上栄明・田代啓一朗<sup>1)</sup>・伊藤由香<sup>1)</sup> (鹿児島農総セ・<sup>1)</sup>鹿児島南薩振興局)
- 11 15:00 諫早湾干拓地における野菜類主要害虫の減農薬防除技術の開発 9) 作物寄生アブラムシ類に対する土着天敵類の効果  
○植松綾子・高田裕司<sup>1)</sup>・陣野泰明・寺本 健 (長崎農技セ・<sup>1)</sup>現：長崎五島振興局)
- 12 15:15 スズメガ類の幼虫寄生蜂スズメヤドリコマユバチにおける寄生時の寄主齢期と生活史調節機構  
○江口祐太・上村卓也・大杉泰樹・高橋滝一・新谷喜紀 (南九州大昆虫生態)
- 13 15:30 日本におけるイネウンカの二次寄生蜂, *Helegonatopus* 属の発見 (ハチ目：トビコバチ科)  
○三田敏治・半田宏伸<sup>1)</sup>・東浦祥光<sup>2)</sup>・George Japoshvili<sup>3)</sup> (九州沖縄農研・<sup>1)</sup>東京農大・<sup>2)</sup>山口柑振セ・<sup>3)</sup>ゲルジア農大)
- 14 15:45 鹿児島市上福元町の水田土壌から得られたシヘンチュウ類について  
○吉田睦浩・松比良邦彦<sup>1)</sup>・柿元一樹<sup>1)</sup>・井上栄明<sup>1)</sup> (九州沖縄農研・<sup>1)</sup>鹿児島農総セ)
- 15 16:00 鹿児島県における 2013 年のトビイロウンカの発生  
○松比良邦彦・井上栄明 (鹿児島農総セ)
- 16 16:15 セジロウンカとトビイロウンカの圃場における増殖パターンの品種間差異 (予報)  
○松村正哉・砥綿知美・真田幸代・松倉啓一郎 (九州沖縄農研)
- 17 16:30 佐賀県におけるツヤアオカメムシの寄主植物  
○本田知大・口木文孝<sup>1)</sup>・糸山享 (明治大院・<sup>1)</sup>佐賀果樹試)
- 18 16:45 タイリクヒメハナカメムシの野外系統および大量増殖系統の繁殖特性の比較  
○塚口世名・大野和朗 (宮崎大農)